

令和 7 年度 大阪府立東大阪支援学校 第2回学校運営協議会 議事録

学校名	大阪府立東大阪支援学校
校長名	藤野 洋子

開催日時	令和 7 年 12 月 10 日(水) 10:00~12:00
開催場所	1階会議室
出席者(委員)	家門 鉄治(会長)、渡久地 綾子(委員)、中西 良介(委員)、八本 美菜(委員)
出席者(学校)	藤野 洋子(校長) 藤川 知己(事務長) 小島 雅武(教頭) 中村 素子(教頭) 坂下 嘉彦(首席) 上別縄 拓(首席) 大石 尚志(首席) 豊田 直人(首席) 毛利 琴美(中学部主事) 能口 登志子(高等部普通課程 部主事) 久保 茉由子(高等部生活課程 部主事)
傍聴者	なし
協議資料	下記の議題に関する資料及び意見書
備考	

議題等(次第順)

- (1) 校長挨拶
- (2) 「学校経営計画」の進捗状況について
- (3) 「学校自己診断アンケート」について
- (4) 「第1回 授業アンケート」について
- (5) 教科用図書 選定報告
- (6) 意見交換
- (7) 教頭挨拶

議題内容・承認事項等(校長より内容説明)

- (1) 校長挨拶
- (2) 「学校経営計画」の進捗状況について
 - ・2 学期の取組の様子を写真や動画で見ていただきながら、説明。
 - 創立50周年の取り組み、他校への学び、デジリハやスヌーズレンの様子等
- (3) 「学校教育自己診断アンケート」について ・アンケートを実施報告。分析については次回報告。
- (4) 「第 1 回授業アンケート」について ・1 学期の報告。2 学期の実施分は次回報告。
- (5) 「教科用図書」選定報告 ・別紙参照。
- (6) 意見交換 ・下欄に掲載
- (7) 教頭挨拶

委員からの意見の概要

- ・「デジリハ」の実践動画を見て、よくわかった。肢体不自由部門だけではなく、生活課程の生徒も活用できる。

「視線入力」の機器も使用できるとのことなので、これも肢体不自由部門の子どもだけでなく、生活課程の生徒も活用できる。生徒の見え方を分析する等、多様な使用方法があるので、有効に活用してほしい。

・学校が改修工事できれいになったり、新しいプロジェクトで機器を導入したり、他の学校に見学に行ったりと色々得るものが多い取組ができている。教員数が増えている状況ではなく、働き方改革で勤務時間が短くなっている中で、どのようにして「新しい挑戦」ができているのか。

→環境面で諦めている雰囲気があったが、R5・R6と工夫をしながら昭和51年創立当時のロッカー等を入れ替え、教室の手洗い等を改修したことで、教職員の意識が変わった部分がある。安全衛生委員会の教職員自らが「ビューティー計画」や「ビューティー週間」を企画して、全教職員自らが率先して校内を整理整頓できたことは自慢できるできごと。環境面で空間ができることは、頭の中にも余白ができ、「工夫・提案・アップデートする力」につながっていると考えている。

・授業アンケートで小学部の提出率が低いのは何か理由があるのか。

→全体として、ご両親とも働かれている家庭が増えている。2学期の土曜参観では保護者の来校・参観者が増えた。

・保護者の中には、授業に加えて、学校生活全般の子どもへのケアや関わり方を気にされている方もおられると思うので、参観だけでなく日々の関りもフィードバックを継続してほしい。

・子どもの環境を整えることで自分たちの教育活動が広がるという前向きな視点は大切だと感じた。自校でも教員の前向きな視点を大切に、リーダーシップを発揮してもらっている。

・保護者の中には、授業アンケートは記名式で出しにくいという声を聞いたことがある。また、意見がある保護者は、見学した時に授業アンケートに〇を記入するよりも担任と直接コミュニケーションをとっている方も多いと思う。

・第2次大阪府教育振興基本計画前期事業計画に基づく意識調査について、府がめざす目標がわかりやすく示されていると感じた。東大阪支援独自のキャラクターが表記されており、わかりやすい。大阪府のめざす子ども像と日々の教育実践をいかに結び付けているのか、具体的な授業の工夫なども今後教えていただければありがたい。

・イノベーションミーティングについて、グループワークによる職員研修だが、教員の興味をうまくひくように作られていると感じた。ワールドカフェ方式での実施も、たくさんの人と話すことができ、教職員の皆さんのエンパワメントにつながるのではと思った。

次回の会議日程

日	時	令和 8年 2月 18日(水)
会	場	大阪府立東大阪支援学校 1階会議室